



■ INFORMATION ■

■ 第8回西郷隆盛をしのぶ 維新ふるさと館書道展

西郷隆盛が書をこよなく愛したこと
はよく知られています。同書道展は、
西郷が没した9月24日を挟む31日間、
広く市民・県民から募集した西郷関
連の作品を展示し、郷土の偉人西郷
隆盛の人徳と偉業をしのぶとともに
郷土への関心を高めることを目的と
して開催しています。

日 時：平成27年9月18日(金)～
同年10月18日(日)
9:00～17:00

会 場：維新ふるさと館



■ 平成27年度 第2回歴史講座

日 時：平成27年11月27日(金)・28日(土)9:30～12:00

会 場：維新ふるさと館多目的ルーム

テーマ：「島津久光と明治維新」

講 師：肥後秀昭 歴史解説員

※申し込みは、11月1日からハガキかFAXで

■ 第4回鹿児島市維新ふるさと館 歴史シンポジウム

日 時：平成27年12月13日(日)13:30～16:00

会 場：サンエールかごしま(鹿児島市荒田一丁目4番1号)

※申し込みは、11月1日からハガキかFAXで

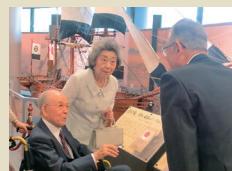
温故地新

ふる故きを温ね、地元を新たに。

■ 「見真」～赤崎勇氏からメッセージ

6月に来館された2014年ノーベル物理学賞受賞の赤崎勇氏から、当館へメッセージが寄せられました。贈られた言葉は「見真(けんしん)」。智慧(ちえ)によって真理を見きわめるという親鸞の言葉。京都市の西本願寺でこれを見たとき、目に焼き付いたそうです。

「一般社会でも科学の世界でも本当の姿(本質)を見ることが重要であり、普段から意識していないと間違ことがある。情報がありふれている今、それらに惑わされることなく本質を見ることが大切である」という赤崎先生からのメッセージです。



● 赤崎氏直筆
「見真」の色紙

■ 屋台村“村民”、ふるさとの歴史勉強会

6月18日、かごつまふるさと屋台村の店主ら“村民”33名が鹿児島の歴史について研修。県外からのお客様が多い屋台村では、会話に鹿児島の歴史の知識が必要不可欠です。

勉強会では、鹿児島の偉人の意外なエピソードや豆知識などを紹介。「西郷さんには全国的なイメージとは違う一面があつたんですね」「お客様に喜んでいただける話のネタができました」と、参加した村民の皆さんに大好評でした。

鹿児島の食の魅力とともに歴史の面白さも発信する“かごつまふるさと屋台村”になるよう応援しています。



● 熱心に受講する“村民”



ショッピング新商品 ステーショナリーグッズ 販売開始

維新ふるさと館の公式キャラクターを使用したグッズを製作しました。当館入館券(小人)のデザインにもなっている西郷さんと大久保さんの可愛いキャラクターのステーショナリー(文房具)です。クリアファイルや下敷きなど、小・中・高校生の皆さんに使ってほしいものや卓上カレンダー、一筆箋など普段の生活で使える商品も充実しています。来館の記念に、お土産に、ぜひどうぞ。

● 小・中・高校生
修学旅行生向けに
作ったグッズ

MBCラジオ 「賢治先生の ふるさと歴史館」

毎週土曜日
17:10～17:25
放送中

当館の福田賢治特別顧問が、幕末、明治維新を中心に、鹿児島の歴史をわかりやすく、楽しく解説します。

ISHIN 維新

明治維新を分かりやすく、楽しく 桜島・錦江湾の風景にマッチした異人館



旧鹿児島紡績所技師館(異人館) 鹿児島市吉野町 画 / 大園 康広

維新を歩く

世界遺産として登録された磯の集成館跡の一角に、旧鹿児島紡績所技師館(異人館)が建っています。そのモダンな洋風建築が人目を引くとともに、洋館建てと桜島や錦江湾の風景とがよくマッチし、一種独特の異国情緒を醸し出している。

鹿児島紡績所は、日本で最初の本格的な紡績機械工場である。薩英戦争後、使節団として留学生を伴ってイギリスへ渡った五代友厚や新納久脩は、イギリスのプラット社から紡績機械を購入するとともに、技師の派遣も要請した。慶応2年(1866年)鹿児島紡績所が建設され、同時に外国人技師の宿泊施設としての旧鹿児島紡績所技師館(異人館)も建設された。

異人館建設は、イギリス人のシリングフォードがその指導にあたったといわれている。しかし、洋風建築ではあるが、日本伝統の尺貫法(寸・尺)が用いられており、屋根裏の梁や桁などの骨組、ドアノブの位置の低さなど、和風建築の用法がみられること

から、日本人大工が建設に関わったことがわかる。

異人館は慶応2年に建設されたが、明治15年頃、一時鶴丸城内に移設され、七高造士館の職員室として使用された際、暖炉が撤去され、二階部分のベランダ外側にガラス窓が取り付けられた。そして、昭和11年に再び現在の場所に戻された。移設前の館は、現在の位置よりやや海よりにあったといわれ、日豊本線の鉄道開通により、線路敷地にかかったことから、少し山手へずれた位置になっている。

当時、外国人技師たち7人がここに宿泊していたという。わずか1年間の滞在だったが、朝夕彼らは、酒やコーヒーなどを飲みながら語らい、このベランダで憩いのひと時を過ごしたことであろう。吹き抜けの二階ベランダに出て見渡すと、集成館の工場群は勿論、桜島や錦江湾などが一望できたものと思われ、幕末の攘夷思想が渦巻く物騒な日本社会の最中にあって、不安を持ちつつ薩摩にきた技師たちの複雑な心を、少しでも癒してくれたのではないかと思う。

(文/福田賢治維新ふるさと館特別顧問)

維新ふるさと館情報紙 [No.15]

■ 平成27年(2015年)秋季号
■ 発行:鹿児島市維新ふるさと館
〒892-0846 鹿児島市加治屋町23番1号
TEL.099-239-7700/FAX.099-239-7800
<http://www.ishinfurusatokan.info>



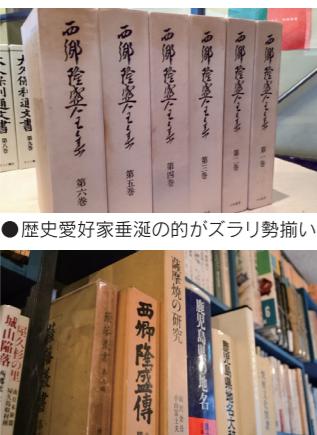
10月23日～11月15日 — 維新ふるさと博開幕 — 当館でも多彩なイベント

維新ふるさと館古書店 (期間中毎日)

鹿児島県内9店舗の古書店と東京神田にある本県出身者の古書店も参加。5,000冊余りの古書が並びます。きっと気になる古書があります。また「古書籍の楽しみ方」など古書店主によるトークショーも開催。(詳細は当館公式ホームページをご覧ください)

【出店古書店】

- ・書肆ひぐらし(東京神田)
- ・古書廣文館
- ・あづさ書店
- ・古本泡沫
- ・本處つばめ文庫
- ・ブックノーツ
- ・古書リゼット
- ・さつま書店
- ・特価書店
- ・トム文庫



●明治維新时期を中心に、歴史古書
約5,000点を紹介

薩摩藩英國留学生企画展 (期間中毎日)

維新ふるさと博では、薩摩藩英國留学生を会場各所で紹介しますが、当館では映像やパネルを使った小企画展を開催します。

また、この機会に当館で上映中の「薩摩スチュードント、西へ」をぜひご覧ください。

蓄音器コンサート&朗読会

10月23日(金)24日(土)、11月7日(土)8日(日)、14日(土)15日(日)

蓄音器はアメリカ人のトマスエジソンが明治10年に商品化。明治43年、日本初の国産蓄音器は、軍艦マーチ等が収録されたレコード付きで発売されました。そんな時代の蓄音器の音色を楽しんでみませんか。

また同時に、KTSアナウンサーによる「鹿児島の偉人の話」朗読会も開催します。



●アメリカ ピクター社製
1903年製造 ピクター4号



維新Café (期間中毎日)

昨年から始まった大好評のCaféが今秋もオープン。薩摩藩英国留学生が渡英の船中で飲んだであろう珈琲「薩摩スチュードント珈琲」とお菓子を提供します。秋のひと時を甲突川河畔の当Caféで…。



●歴史愛好家垂涎の的がズラリ勢揃い
●深煎りの珈琲は好評

特別歴史講座開催

10月24日(土)10:30～12:00

テーマ:「五代友厚、もう一つのミッション
～ベルギー商社とパリ万博を中心に～」
場 所:維新ふるさと館 維新体感ホール
講 師:鹿児島県知事公室政策調整課専門員
吉満庄司氏
定 員:100名(応募多数の場合 抽選)
入館料:300円
(年間パスポート、敬老バス使用可)
申込み:専用の申込用紙かハガキ
で10月13日(火)必着。



県小学校社会科作品コンクール作品展

11月8日(日)～21日(土)

県内の小学3年生以上の子どもたちが、夏休みに取り組み、応募し、表彰された社会科自由研究の作品展です。昨年に引き続き開催します。



●今年も力作が期待されます

教職員歴史講座

「これだけは知っておきたい鹿児島の歴史」今年も開講

郷土教育に活かしてほしいと、8月11日・12日の2日間、鹿児島県内の教職員49名を対象に、教職員歴史講座「これだけは知っておきたい鹿児島の歴史」を開講。幕末から明治にかけての薩摩の歴史を6テーマの講座で学び、野太刀自頭流も体験しました。

受講後のアンケートでは、「知らないことが多く勉強になった」、「鹿児島には情熱のある政治家がたくさんいたということを子どもたちに伝えたい」、「薩摩の武士の気迫を感じることができた」といった声が寄せられました。

先生方が郷土の歴史学習に取り組む時の情報収集に当館をぜひ活用してほしいと思います。当館も情報提供などお手伝いします。



●熱心さが際立つ



●「続打ち」に汗びっしょり



●縦180cm、横75cmの掛け軸



●発掘現場(霧島市国分敷根彦田)

「タカ&つん」 “ミュージアムキャラクター アワード2015”に 参戦、健闘



●「応援に感謝！」スタッフ一同

“ミュージアムキャラクターアワード2015”は、全国の博物館、美術館のキャラクター日本一を決めるインターネット内のイベント。今年で6回目です。この大会に、今春誕生した当館キャラクター“タカ&つん”が登場。“タカ&つん”は、西郷さんと愛犬つんをキャラクター化したもので、おそろいの「太い眉毛」が特徴です。

結果は3,679票の得票で、全国から出場した41のキャラクター中6位。残念ながら1位は逃しましたが、エントリー期間中、「薩摩魂を見せつけろ!」「最後まで気張れ!」と、およそ650件の熱い応援メッセージをいただきました。来館者をはじめ、地元鹿児島の方々のかごしま弁での応援、最後まで諦めずに投票していただき、本当にありがとうございました。

“タカ&つん”は、まだまだ駆け出し。これからもよろしゅ、頼んみやげもす。

館の宝物 絵図 敷根火薬製造所

霧島や硫黄島から運びやすいこと、人里離れた場所にあり危険性が低かつたことなどが考えられます。

幕末、欧米列強のアジア進出に危機感を抱いた薩摩では、島津興典や齊彬の時代に兵制や軍備の洋式化・近代化を進めました。齊彬は青銅砲や洋式銃の製造を行う「鋳製方」(銃砲製造局)を設立しました。斉彬は火薬製造所を開設しました。や漬之上火薬製造所を設立しました。斉彬は鉄製砲を造るための反射炉や溶鉱炉、鑄造台などの建設とともに漬之上火薬製造所の更なる充実を図るため、嘉永年間には洋式に改めたと言われます。

敷根の火薬製造所は、薩英戦争前後の文久三年に漬之上の分局として、国分敷根の高橋川流域に建てられました。担当したのは伊勢仲左衛門で、当時八基の水車を備え、職工三〇人ほど、漬之上と合わせて年間四トンの黒色火薬を製造していたと言われます。この地に建設したのは、鹿児島湾の奥にあります。鹿児島島の偉人の話

は、明治政府のすすめる諸政策をなかなか実行せず、政府から問題視されていました。そこで、政府が草牟田に貯蔵されていた火薬を無断で県外に持ち出そうとした事件が発端となり、明治〇年、西南戦争が勃発しました。政府軍は、西郷軍が熊本方面で戦っている間に鹿児島を占領して、弾薬製造基地や砲台を徹底破壊、更に伊東祐磨(薩摩出身)指揮する軍艦・春日丸を敷根火薬製造所に派遣、上陸した乃木希典(後の海軍元帥)らが放火・破壊しました。

維新ふるさと館が所蔵する「敷根火薬製造所絵図」は、薩英戦争後「耕南」によって書かれたと見られますが、当時の水車や工場などの様子が丁寧に描かれているといつことで、鹿児島県立埋蔵文化財センターがこの図を基に現地を発掘・調査し、ほぼ絵図どおりであることが確認されました。